

# 研究協力をお願い

昭和大学病院附属東病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

研究題名：入浴回数と転倒リスクの関係
<b>1. 研究の対象および研究対象期間</b> 2018年7月から2020年3月の間に、整形外科骨粗鬆症診に通院された65歳以上の方。
<b>2. 研究目的・方法</b> 本邦では要介護や要支援に該当する方の原因の約25%を運動器の障害が関与するため、転倒予防や易転倒者の早期発見は重要であります。一方で、臨床現場では「お風呂場で転んだ、滑った」「怖くて一人ではお風呂に入れない」など、入浴にまつわる話を聞くことが度々あります。「入浴回数で転倒リスクの評価ができるのではないか」という疑問を抱きました。過去の論文では入浴回数を増やす工夫や、治療における温浴効果、入浴が要支援、要介護を減少するといった報告はありましたが、入浴回数と転倒との関連を報告したものは渉猟した限りありませんでした。そこで「入浴回数が少ないと、転倒リスクが高い」という仮説をたて、研究を行うこととしました。 対象は、昭和大学病院附属東病院整形外科で骨粗鬆症外来通院中の65歳以上の女性を調査対象とします。調査項目は1週間の入浴回数、転倒スコア（13点中6点以上で易転倒）、握力、開眼片脚起立時間、フレイル、CONUTスコア、血圧の値を使います。入浴の定義は、「浴槽に湯を張って体を浸からせる行為」とし、シャワーのみや足浴などの部分浴は除外します。1日に複数回入っている場合でも、1日の回数は1回とします。対象者を前期高齢者と後期高齢者に分けて検討を行い、転倒スコアと入浴回数との関係を調べます。統計解析は、Stat Flex 7.0を用いて、t検定、多重ロジスティック回帰分析（ステップワイズ法を用いて、限界P値0.05）を行い $P < 0.05$ を有意差ありとします。
<b>研究期間</b> 「医学研究科 人を対象とする研究に関する倫理委員会」承認後、病院長の研究実施許可を得てから2021年3月31日まで。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

2018年7月1日から2020年3月31日までに昭和大学病院附属東病院整形外科において骨粗鬆症の経過観察のために受診している患者診療録の中から、転倒スコアが聴取されている外来患者のデータを用います。患者背景（年齢、性別、身長、体重、診断病名、既往歴、現病歴、併用薬）および検査項目（1週間の入浴回数、転倒スコア（13点中6点以上で易転倒）、握力、開眼片脚起立時間、フレイル、CONUTスコア、血圧の値）を調査項目とします。

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学病院附属東病院整形外科 氏名：永井隆士

住所：142-0054 東京都品川区西中延 2-14-19 電話番号：03-3784-8000(代表)

研究責任者：永井隆士